

田尻町文化財調査報告 第5集

平成12年度

## 田尻遺跡発掘調査概要

2001.3

泉南郡田尻町教育委員会



## は じ め に

近年の発掘調査の成果にはめざましいものがあります。島根県大社町では出雲大社境内で巨大木造建築を裏付ける柱根、奈良県明日香村では酒船石遺跡から亀形石造物と石敷き造構、滋賀県信楽町では紫香楽京中核施設の発見などの報道は記憶に新しいものです。

人間が住みよい環境を創造するために行われる開発がもたらす、文化財や自然に対する影響は大きいものがあります。特に埋蔵文化財は普段目に触れることなく地中に包蔵されており、地面の掘削を前提とし、埋蔵文化財を破壊してしまう開発と直接に結びつく大きな問題です。

遺跡には、田尻町の先人達のメッセージが埋蔵文化財として託されています。そのメッセージを現在の町民、更には未来の町民に伝えてゆかなければなりません。

本書は、平成12年度に下水道管渠埋設に伴い実施した田尻遺跡での発掘調査の成果を収録しています。この地域の歴史像をさらに豊かにするための資料として活用していただければ幸いです。

概要を報告するに当たり、調査にご協力いただいた地元の方々並びに関係各位にお礼申し上げるとともに、今後とも文化財保護にご理解とご協力をお願い申しあげます。

平成13年3月30日

泉州郡田尻町教育委員会  
教育長 道浦 達久

## 例　　言

1. 本書は、泉南郡田尻町教育委員会が平成12年度に田尻町事業部より依頼を受けて実施した、田尻遺跡における埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告である。
2. 調査は泉南郡田尻町教育委員会社会教育課文化財保護係 中野篤史を担当者として、平成12年8月21日に着手し、平成13年3月30日に終了した。
3. 本書における図面の標高はT.P.(東京湾平均潮位)を用い、また方位については磁北を示す。
4. 調査の実施にあたっては、武木和仁の参加協力を得た。
5. 現地調査にあたっては、土地所有者をはじめとする工事関係者等多くの方々の協力を得た。ここに記して感謝の意を表する。  
田尻町事業部下水道課、株式会社新道
6. 実測図のトレースは武本がおこなった。
7. 本書の執筆、編集は中野がおこなった。

# 目 次

はじめに

例 言

目 次

## 第1章 調査の契機

1. 田尻町の位置と環境.....	1
2. 遺跡の環境.....	1

## 第2章 調査の概要

1. 調査の契機.....	1
2. 調査の概要.....	2

報告書抄録..... 卷末

## 挿 図

図 1 田尻町位置図.....	1
図 2 調査地点位置図(1/5,000) .....	2
図 3 調査区設定図.....	2
図 4 Tr. 1 土層断面図.....	2
図 5 Tr. 2 土層断面図.....	3
図 6 Tr. 2 平面図.....	3
図 7 溝1 断面・平面図.....	3
図 8 Tr. 3 土層断面図.....	3
図 9 Tr. 3 平面図.....	4
図10 土坑1・2 断面・平面図.....	4
図11 ピット1～5 断面・平面図.....	4
図12 調査区設定図.....	5
図13 Tr. 4 土層断面図.....	5
図14 Tr. 4 平面図.....	5
図15 土坑3 断面・平面図.....	6
図16 ピット6・7 断面・平面図.....	6

図17	Tr. 5 土層断面図	6
図18	Tr. 5 平面図	7
図19	Tr. 6 土層断面図	7
図20	Tr. 6 平面図	7
図21	ピット 8 断面・平面図	7
図22	出土遺物	8

## 図 版

図版1 田尻町航空写真

図版2 田尻遺跡第10次調査Tr. 1 全景

田尻遺跡第10次調査Tr. 2 全景

図版3 田尻遺跡第10次調査Tr. 3 全景

田尻遺跡第10次調査Tr. 4 全景

図版4 田尻遺跡第10次調査Tr. 5 全景（東より）

田尻遺跡第10次調査Tr. 5 全景（西より）

図版5 田尻遺跡第10次調査Tr. 6 全景

田尻遺跡第10次調査出土遺物

## 第1章 位置と環境

### 1. 田尻町の位置と環境

田尻町は、大阪府の南西部、大阪湾海岸線のほぼ中央部に位置する。北東から南東にかけては泉佐野市、南西は泉南市に接し、北西は大阪湾に面している。町域の中央部を田尻川が、泉南市境を樅井川が流れている。町内を海岸線に並行して旧街道（孝子越街道）が通っており、それよりやや内陸部を府道堺阪南線（旧国道26号線）、南海本線が通る大阪と和歌山を結ぶ基幹交通の通過点となっている。本町を形成する地区は旧来の嘉祥寺・吉見地区と新たに埋立により誕生したりんくうタウン・空港島の4地区である。町域は、 $3.86 \text{ km}^2$ と大阪府下で最も小さく、人口も府下で最少の約7,200人と小さな町である。



図1 田尻町位置図

### 2. 遺跡の環境

田尻遺跡は、本町の中央部に標高5m～7mにかけて位置する古墳時代から中世にかけての遺物散布地である。本遺跡の南西部、泉南市との市境には樅井川が流れしており、同河川の旧流路によって形成された沖積段丘上に広がっている。本遺跡の南には、弥生中期から古墳時代の遺跡として知られる夫婦池遺跡や弥生時代中期後半の方形周溝墓群の樅井西遺跡などがある。

田尻遺跡がはじめて発掘調査されたのは、昭和59年度に住宅建設に伴う大阪府教育委員会の調査が最初である。調査の結果、弥生時代後期の溝及び土坑、古墳時代から奈良時代の土坑、中世の溝及びビットが検出されている。また、昭和62年度、平成6年度にも大阪府教育委員会により調査がおこなわれ、中世に属すると思われる溝や土坑が検出されている。その後、本町教育委員会により調査をおこなっているが、いまだに遺跡の内容については、小規模な調査が多いため不明である。

古代においては、和泉国日根郡賀美郷に属していたと考えられ、中世には「長講堂所領注文」建久2年（1191）の記載により古見莊に含まれていた。

現代、本遺跡は府道堺阪南線（旧国道26号線）に隣接し、また南海本線古見の里駅に近いため、遺跡周辺部での開発が進みつつある地域である。

## 第2章 調査の概要

### 1. 調査の契機

今回の調査地は、平成12年度当初の段階では、田尻遺跡として周知されていなかった土地であ

る。平成12年5月に付近で開発事業があり、現況が耕作地であったため、まず分布調査を実施した。その結果、土師器、瓦器等の破片が散布している状況が確認され、付近に中世の遺跡が存在するものと思われた。その後、トレーナー掘りによる確認調査を実施し中世に属すると思われるピット、土坑を検出し、大阪府教育委員会へ遺跡発見届を開発事業者から届出て田尻遺跡の拡大となつた。

田尻遺跡の範囲が拡大された後、本町事業部が拡大された遺跡の部分で下水道管を埋設することがわかり、埋蔵文化財の保護について協議した結果、田尻町の依頼を受けて本町教育委員会が発掘調査を実施することとなつた。

調査は、平成12年8月21日より9月7日までの期間、現地調査を実施した。

## 2. 調査の概要

調査は、今回の下水道管渠築造工事区間のうち、6ヶ所に1m×5mの調査区を設定し、30m<sup>2</sup>に

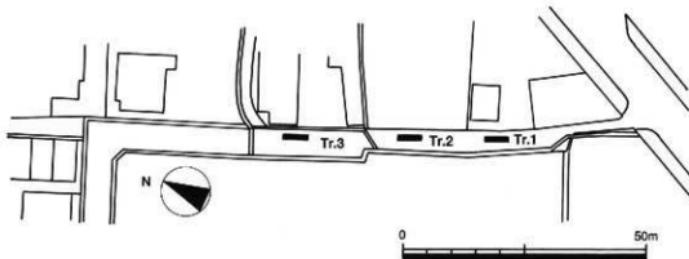


図3 調査区設定図



図4 Tr.1 土層断面図

ついで実施した。重機により表土を除去後、途中まで慎重に機械掘削したのち、人力により遺構面まで掘削し、遺物遺構の検出につとめた。

### トレーナー1

この調査区の層序は上から順に盛土（層厚約45cm）、旧耕土（層厚約10cm）、

黄灰色砂質土（約30cm）、地山となる。  
陶器片が出土している。

### トレンチ2

この調査区の層序は上から順に盛土  
(層厚約50cm)、旧耕土(層厚約15cm)、  
黄灰色砂質土(約30cm)、地山となる。  
遺物は、須恵器、土師器、瓦器、陶器の  
破片が出土している。

遺構は、東西方向にのびる溝を検出した。

溝1 溝の幅は3mを測り、深さは27cm  
である。溝の埋積土は上層が灰色砂まじ  
る黄灰色砂質土、下層が礫まじりの黄灰  
色砂質土である。時期としては中世に属  
する遺構であると考えられる。

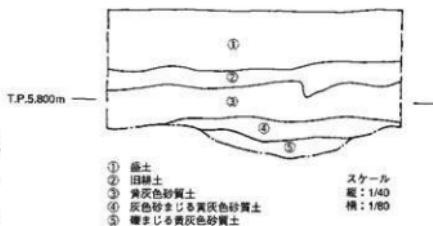


図6 Tr.2 平面図

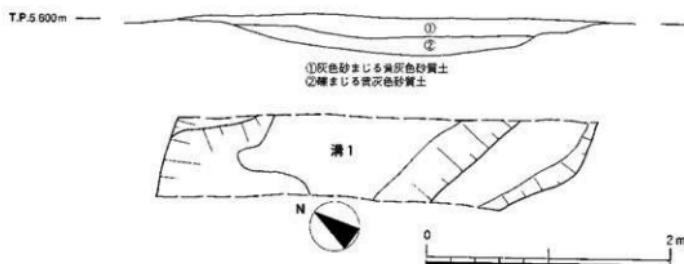


図7 溝1断面・平面図

### トレンチ3

この調査区の層序は上から順に盛土  
(層厚約50~60cm)、灰黄色砂(層厚  
約10cm)、暗灰色砂質土(約35cm)、  
灰オリーブ色砂質土(層厚約10cm)、  
地山となる。遺物は包含層中より石器、  
須恵器、土師器、瓦器の破片が出土し  
ている。遺構は、土坑1・2、ピット  
1~5を検出している。

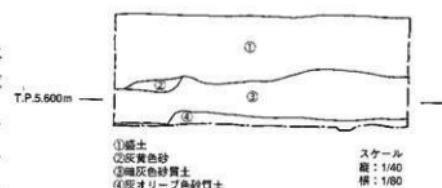


図8 Tr.3 土層断面図

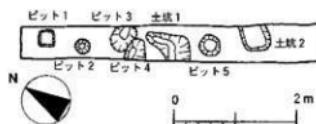


図9 Tr.3平面図

**土坑1** トレンチ3の中央部で検出した土坑で隅丸三角形状の不定形を呈する。南北長80cm、東西長50cm、深さ10cmを測る。遺構の埋積土は灰オリーブ色砂質土である。遺物は出土していない。

**土坑2** 調査区の南部で検出した四角形を呈する土坑である。検出長45cm、幅45cm、深さ2cmを測る。遺構の埋積土は灰オリーブ色砂質土である。遺物は出土していない。

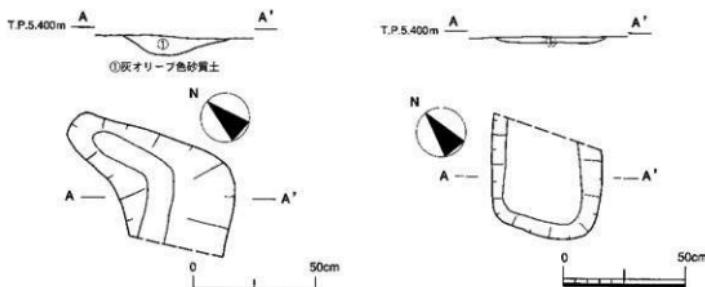


図10 土坑1・2断面・平面図

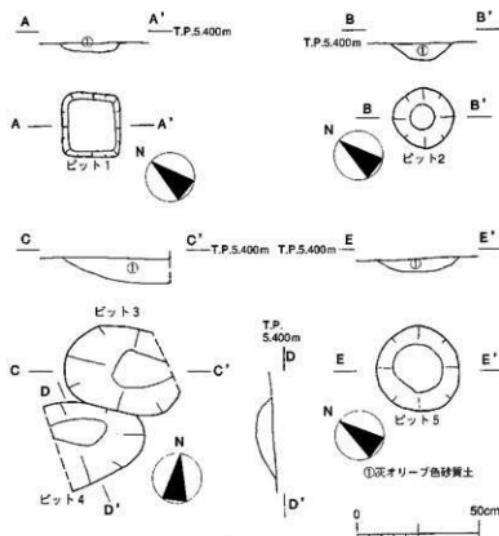


図11 ピット1~5断面・平面図

**ピット1** 調査区の北部で検出した四角形を呈するピットである。長さ27cm、幅25cm、深さ3cmを測る。埋積土は灰オリーブ色砂質土である。遺物は出土していない。

**ピット2** 調査区の北部で検出した円形のピットである。直径25cm、深さ7cmを測る。埋積土は灰オリーブ色砂質土である。遺物は出土していない。

**ピット3** 調査区の中央部で検出した楕円形のピットである。検出長35cm、幅45cm、深さ10cmを測る。埋積土は

灰オリーブ色砂質土である。遺物は出土していない。

**ピット4** 調査区の中央部で検出した楕円形のピットである。検出長35cm、幅35cm、深さ6cmを測る。埋積土は灰オリーブ色砂質土である。遺物は出土していない。

**ピット5** 調査区の中央部で検出した円形のピットである。直径35cm、深さ6cmを測る。埋積土は灰オリーブ色砂質土である。遺物は出土していない。

各遺構からは遺物は出土していないが、包含層の遺物の出土状況から察すると、調査区1と同様に中世の頃の遺構であると考えられる。

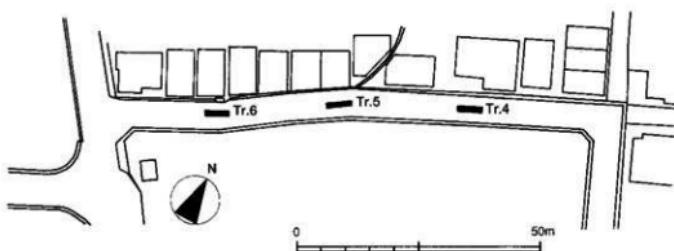


図12 調査区設定図

#### トレンチ4

この調査区の層序は上から順に盛土  
(層厚約55cm)、旧耕土(層厚約15cm)、  
灰褐色砂質土(層厚約32cm)、地山と  
なる。調査区の東部は、紡績工場の織  
機設置用の基礎により搅乱を受けてい  
る。遺物は土師器片が出土している。

遺構は調査区の西部でピット6・7、  
調査区の東部で土坑3を検出している。

**土坑3** 調査区の東部で検出した北西  
から南西方向に主軸をもつ土坑と思わ  
れる。調査区の幅が狭いため、溝の可  
能性もあるが、現報告では、土坑とし  
ておく。東端部は織機設置基礎により  
搅乱されているため規模は不明である。

深さは25cmを測る。遺構の埋積土は、  
灰褐色砂質土である。遺物は出土していない。

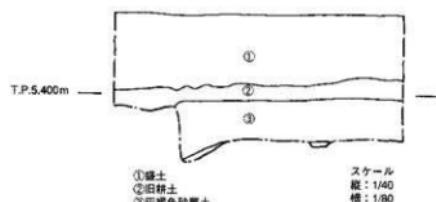


図13 Tr.4 土層断面図



図14 Tr.4 平面図

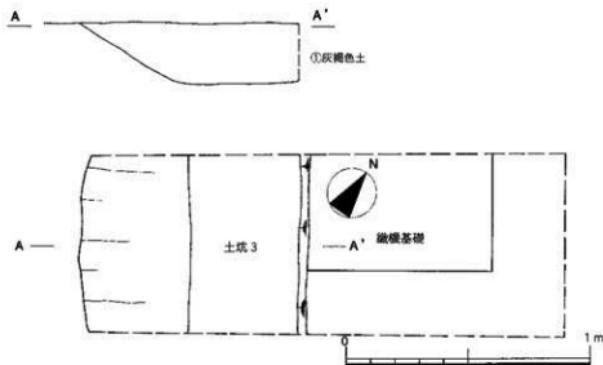


図15 土坑3断面・平面図

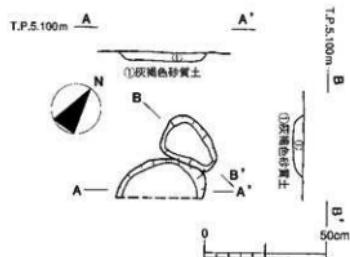


図16 ピット6・7断面・平面図

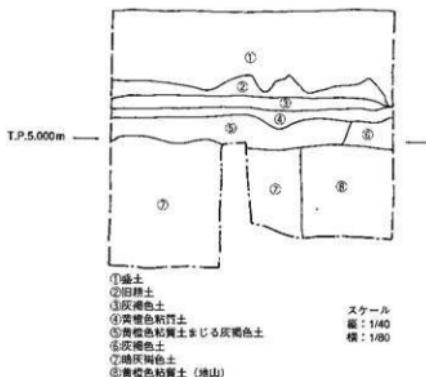


図17 Tr.5 土層断面図

**ピット6** 調査区の西部で検出した楕円形のピットである。東西長25cm、南北長15cm、深さ4cmを測る。埋積土は灰褐色砂質土である。遺物は出土していない。

**ピット7** 調査区の東部で検出した円形のピットと思われる。直径35cm、深さ4cmを測る。埋積土は灰褐色砂質土である。遺物は出土していない。

#### トレンチ5

この調査区の層序は上から盛土(層厚約60cm)、旧耕土(層厚約15cm)、灰褐色土(層厚約10cm)、黄褐色粘質土(層厚約8cm)、灰褐色土(層厚約20cm)、地山である。遺物は、土師器、陶磁器の破片が出土している。遺構は、粘土採掘坑と思われる上坑4・5を検出した。

**土坑4** 調査区の東半部で検出した北西から南東方向の主軸をもつ土坑である。地山面からほぼ垂直に60cm掘削されている。検出した最深部で地山から75cmを測る。埋積土は暗灰褐色砂質土である。

短期間に掘削されて埋め戻されたようである。

**土坑5** 調査区の西半部で検出した土坑4と同様の土坑である。地山面から垂直に100cm以上掘削されている。地表面下2mを超えたため、掘削を中断した。埋積土は暗灰褐色砂質土であり、短期間に掘削されて埋め戻されたようである。地山の黄橙色粘質土を採掘したものと考えられる。

土坑4・5とも遺構の時期としては旧耕土床土の黄橙色粘質土の下層より掘削の痕跡が認められるので近世か近代のものであると思われる。

#### トレンチ6

この調査区の層序は上から盛土（層厚約40~50cm）、旧耕土（層厚約10~20cm）、黄灰色砂質土（層厚約15cm）、褐色砂質土（層厚約10cm）、灰褐色砂質土（層厚約25cm）、灰黄色粘質土（層厚約25cm）、地山である。遺物は、土師器、瓦器の破片が出土している。

遺構は調査区の東端部でピット8を検出した。

**ピット8** 調査区の東端部で検出した梢円形を呈するピットである。長径22cm、短径15cm、深さ4cmを測る。遺構の埋積土は灰黄色粘質土である。遺物は出土していない。

#### 出土遺物

今回の調査では、各調査区から細片の遺物が出土している。図示したものを掲載している。

#### トレンチ2出土遺物

2は瓦器碗、3は土師器鉢、4・5は須恵器杯、6は陶器擂鉢、9は須恵器の平瓦である。

#### トレンチ3出土遺物

7は石器剥片、8は土師質管状土錐である。

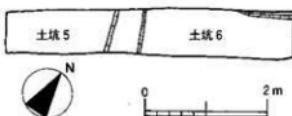


図18 Tr.5平面図

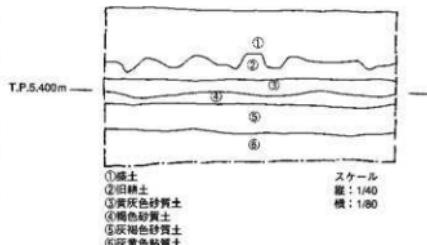


図19 Tr.6土層断面図

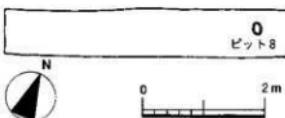


図20 Tr.6平面図

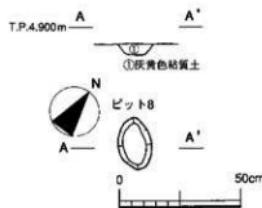


図21 ピット8断面・平面図

## トレンチ 6 出土遺物

1 は土師器皿である。

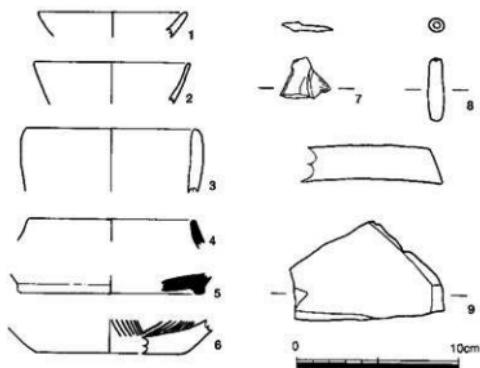


図22 出土遺物

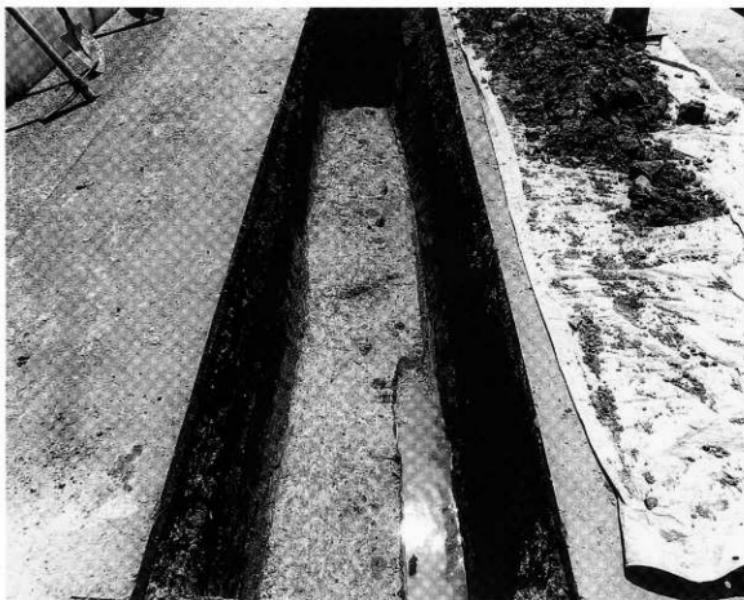
## まとめ

今回の調査で、田尻遺跡の中世遺構の広がりについて少しの知見を得ることができた。第9次調査において確認された中世遺物包含層により付近に遺構の存在が想定されたが、調査の面積が小規模であったため、遺構確認はできなかった。今回も前回と同様に小規模な調査ではあったが、検出された溝、ピット、土坑等の遺構から中世期の田尻遺跡での遺構の広がりの一端を確認できたことは成果が大きいといえる。今後、この付近での調査の進展に期待したい。

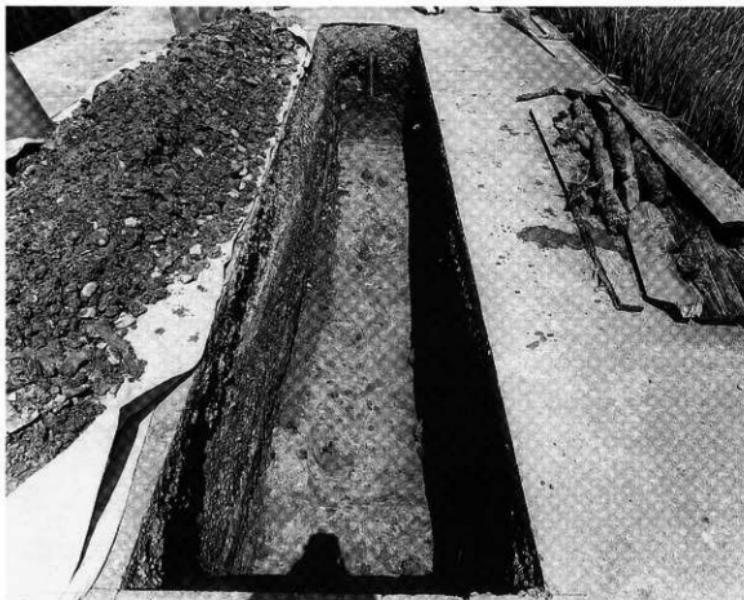
図 版



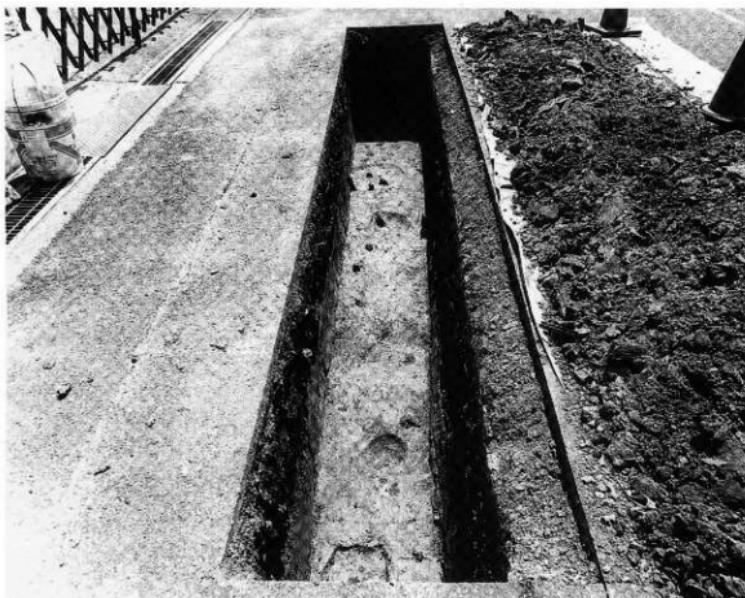
田尻町航空写真



田尻遺跡第10次調査 Tr.1全景



田尻遺跡第10次調査 Tr.2全景



田尻遺跡第10次調査Tr.3全景



田尻遺跡第10次調査Tr.4全景



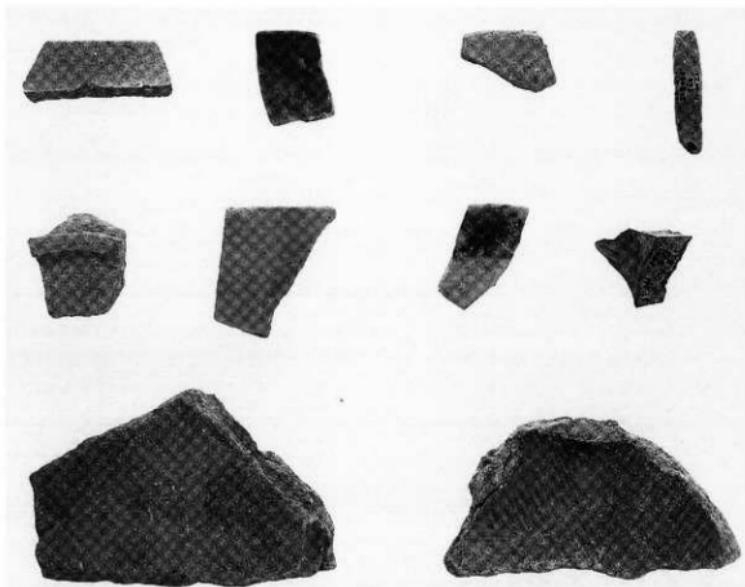
田尻遺跡第10次調査Tr.5全景(東より)



田尻遺跡第10次調査Tr.5全景(西より)



田尻遺跡第10次調査Tr.6全景



田尻遺跡第10次調査出土遺物

# 報告書抄録

ふりがな	へいせい12ねんど たじりいせきははくつちょうさかいよう							
書名	平成12年度 田尻遺跡発掘調査概要							
副書名								
卷次								
シリーズ名	出戸町文化財調査報告							
シリーズ番号	第5集							
編著者名	中野 勝史							
編集機関	泉南郡田尻町教育委員会							
所在地	大阪府泉南郡田尻町大字嘉祥寺375番地の1							
発行年月日	2001年3月30日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
田尻遺跡	大阪府 泉南郡 田尻町 吉見			34° 23° 39°	135° 17° 48°	平成12年 8月21日～ 9月7日	30	下水道管の 埋設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
田尻遺跡	散布地	古墳～中世	土坑、ピット、溝	土師器・須恵器 瓦器				

田尻町文化財調査報告 第5集

平成12年度

田尻遺跡発掘調査概要

2001年3月30日

編集・発行 泉南郡田尻町教育委員会

〒598-8588

大阪府泉南郡田尻町大字嘉祥寺375番地の1

TEL0724-66-1000（代表）

印 刷 株式会社小笠原印刷

大阪府泉佐野市上瓦屋646番地

